

談話室 第十五回

初わらい

閑居小八

平成二十四年と年も改ま

りました。みなさん、明けましておめでとうございます。昨年は日本に激震が走った暗い一年になりました。今年

り、昔のソ連などでは、ややもすると両手が後に回る危険もありました。しかし、こ

「今こそ平家を討ちましよう」と迫る文覚。

頼朝は「うーむ。そうは言っ

無念を晴らすのです」と、亡

き義朝公の髑髏をとりだす。

「ああ、父上！」と頼朝は、

文覚「平家追討の院宣は、

ひとしきり泣いた後で、小

この髑髏、何やら、ちいさい

文覚、落着き払って、こう

応えた。「それもそのはず、

お父上が子どもの時の髑髏

です」

「天八人ノ上二人ヲ造ラ

ズ」福沢諭吉

それを聞いた早稲田の学

明治のはじめ、東京上野の森の美術大学校で。画家「この絵を売るがいくら

翁「酒をやらんことだ。煙草もね。あちらのほうも、ソウ、

日本人は全員で幾らになるか考えていた。

